

住宅、自動車とも増加が続く

輸入は電気銅が引き続大幅増

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏リポート①

■概況

一月前半は一三年十二月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数が市場予想を大幅に下回ったこと、週間新規失業保険申請件数が三三・九万件に減少、予想の三四・四万件を下回り、十二月の米ISM製造業景況指数は五七に低下するなどの材料から金融緩和と縮小純化観測が台頭するも、一三年十二月の米雇用統計で、雇用者数の増加幅が想定外に低調だった一方で十三日の米株式市場では米アトランタ連銀のロックハート総裁が、雇用環境に懸念を示しつつも量的金融緩和の縮小の継続が望ましいと発言したこと嫌気し、LME銅相場は小幅下落、七、三四三ドル(セツル)と前月最終価格より四四ドル下げたの前半締めとなった。

後半は一月のNY連銀製造業景況指数はプラス二・五に上昇、予想の三・五〇を上回り、十二月の米生産者物価指数は前月比〇・四%上昇。六カ月ぶりの大幅な伸び。また十二月の米CPIは前月比〇・三%上昇、コア指数は〇・一%上昇などの米経済指標の好結果や、IMFが二〇一四年の世界経済成長率を三・七%と、昨年十月時の三・六%から上方修正するなどのプラス材料があったものの、昨年のドイツGDP成長率が〇・四%と予想を下回ったことや、一月のHSBC中国製造業購買担当者景況指数(PMI)速報値は前月比〇・九ポイント低い四九・六となり、半年ぶりに好不況の境目となる「五〇」を下回ったこと、アメリカの金融緩和縮小や中国景気後退による新興国からの資金流出不安でトルコ、アルゼンチン株が暴落したことなどから世界経済後退懸念が台頭、二月四日現在、前半締めから二四七・五ドル暴落の七、〇九五・五〇ドル。建値七十七万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート(TTM)チャート全圖掲載  
一〇五・〇三→一〇二・四五(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一二・二%増の七八万六、六〇九台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比二七・五%増の二九万二、四四六台。

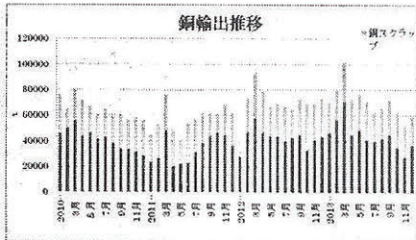
◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一八%増の八万九、五七八戸であった。

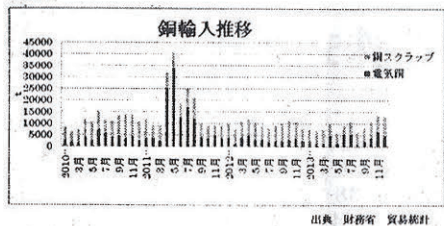
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が一六・三%減の三万六、三三〇t、スクラップが二四・八%減の二万二、四一四t。輸入は電気銅が前年比八五・三%増の四、八一七t、スクラップ五一%増の八、〇九一t。

	10月	11月	12月
輸出			
電気銅	3万5038 t	2万7156 t	3万6330 t
前年比	-6.2%	-33.6%	-16.3%
スクラップ	2万7150 t	2万5090 t	2万2414 t
前年比	-24.3%	-11.7%	-24.6%
輸入			
電気銅	3万765 t	6648 t	4817 t
前年比	+21.5%	+98.7%	+85.3%
スクラップ	7978 t	8975 t	8091 t
前年比	-13.1%	-4.7%	+51%



	10月	11月	12月
輸入			
電気銅	3万765 t	6648 t	4817 t
前年比	+21.5%	+98.7%	+85.3%
スクラップ	7978 t	8975 t	8091 t
前年比	-13.1%	-4.7%	+51%
輸入推移			



■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比一五%増の六万五、五六〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前年比八・六%増の六万一、六〇〇tであった。(六面へ続く)

# 国内の当面はタイトな状態が続くか

## 海外銅焦点は新興国の資金流出問題など

(四面より続く)

輸入は電気銅が八五・三%増の四、八一七t。スクラップは五・一%増の八、〇九一t。円高の進行による割安感や内需の好調から電気スクラップともに輸入が増加したとの見解。  
〔銅需給に関して〕

住宅関連は新設住宅着工数が前年比一八%増と一六カ月連続増加。持家一九・二%増、貸家二九・八%増と大幅増。消費税前の駆け込み需要から依然好調さが伺える。今後の動向に期待。

待望の自動車は生産が四カ月連続上昇の一・二%増。さらに十二月の国内販売台数が前年比二七・五%増と大幅増。前月に続き予測の通り販売増につられて生産が増加。消費税前のかげ込み需要から住宅、自動車需要の二本柱が上昇。

為替が一時一〇〇円近辺と大幅円高が進行。輸入原材料も割安感が多少台頭したものの国内原材料へのシフトが見られるが、こちらも発生難から引き続き供給不足が続くとの見解。ただ消費税前の駆け込み需要が終わる四月以降一旦需給は緩む。

〔銅価格に関して〕

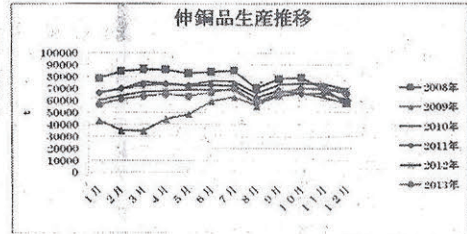
今月は春節明けの中国の動向及び、新興国からの資金流出問題に左右される。

中国の動向に関しては一月のHSBC中国製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値は前月比〇・九ポイント低い四九・六となり、半年ぶりに好不況の境目となる「五〇」を下回ったことから後退懸念は根強いのではないかと。またそれに伴い資金流出問題も再燃する可能性は高い。FRBの金融緩和縮小も米国自身の株価がさらに下落しなければベースを落とす可能性は低く、今月は希望薄。

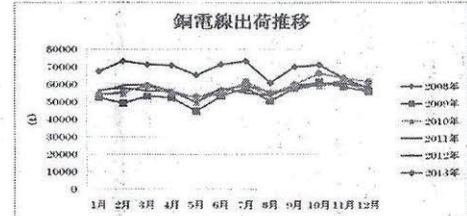
それらを踏まえた銅価格の上値は、春節明けに景気対策や声明、もしくはFOMCで金融緩和縮小ベースの鈍化など行われた場合、一月後半高値付近の七、三〇〇ドルを予測。

下値は上記の景気対策などが行われなかった場合、一月後半もう一段安値の六、九〇〇ドルを予測。

為替は前記景気対策が行われた場合、下値は他国通貨高円安から一月後半安値の一〇四円、上値は景気対策が行われなかった場合、失望感から九円九円まで円高が進むとの予測。  
銅建値に関しては七三〇〇八〇〇〇程度と予測している。



出典 日本伸銅協会



出典 日本電線工業会

■見通し  
一月は米連邦準備理事会(FRB)による金融緩和縮小や中国景気後退観測による新興国からの資金流出問題に一喜一憂した月となった。

自動車生産は前年比一・二%増の七八万六六〇九t。四カ月連続プラス。このうち、乗用車は六六万八、〇三三台で七万三、三〇一台。一・二%の増加となり、四カ月連続のプラス。トラックは一〇万八、五七三台で一・二%増。二・二%の増加となり、六カ月連続のプラス。バスは一万〇、〇三三台で二・五%増。一・三%の増加となり、三カ月ぶりにプラス。輸出は前年同月比五・一%の減少。(実績)

販売の方は五カ月連続前年超え。前年比二七・五%増。このうち乗用車は二八%増、貨物二四・四%増、バスは四・六%増。

新設住宅着工戸数は一六カ月連続増加、前年比一八%増(季節調整済み前月比一・七%増)の八・九万戸。このところ、消費マインドの改善等もあり、堅調に推移。このうち持家一九・一%増、貸家二九・八%増、分譲住宅二・一%増、分譲マンション七・四%減。

伸銅品生産量は前年比一五%増の六万五、五六〇tと六カ月連続前年を上回る。このうち内需は一三%増、輸出は円安を追い風に九カ月連続前年プラスの二七%増。

銅電線出荷量は、前年比八・六%増の六万一、六〇〇t。うち国内八・一%増、輸出が二五・五%増。分野別では、通信一〇・六%減、電力二・九%増、電気機械八・三%増、自動車一四・四%増、建設電版九・八%増。  
輸出に関しては、電気銅輸出が前年比一六・三%減の三万六、三三〇t。銅スクラップは二四・八%減の二万二、四一四t。

三円近く円高が進んだことや、発生難、好調な国内生産を背景に国内需要家が原料手当てを急いだため電気銅、スクラップ輸出は減少した。

